

第3回安城市地区公園基本構想策定委員会 議事録

日 時:令和 7 年6月 20 日(金) 13 時 15 分～15時 00 分

場 所:デンパーク フローラルプレイス リュッケ広場

出席委員

伊藤孝紀	名古屋工業大学大学院工学研究科准教授
近藤早映	三重大学大学院工学研究科准教授・東京大学先端科学技術研究センター准教授
吉武 駿	信州大学総合理工学研究科助教
青木奈美	株式会社ザ・ソーシャル代表取締役
湯浅健司	愛知県都市・交通局都市基盤部公園緑地課長
水野正二郎	安城市都市整備部長

【議事】

(伊藤会長) 私自身、デンパークに初めて来ました。ここに来て2点感じたことがあるため、共有させていただき、このことも踏まえながら、皆さんのご意見をお聞きしたいと思っています。まず、デンパークに來させていだいて、非常に素晴らしい施設だと感じています。30年程度が経過していても、維持、メンテナンスがしっかりできており、また、コンテンツがしっかりしているため、我々が公園を検討していく中で、ここも都市公園として検討すべきだと感じました。それを踏まえ、堀内公園は遊園地的な良い公園であり、デンパークもポテンシャルの高いところであるため、一緒に検討することを考えた方が良いのではないかと思います。2つ目は、第1回から話をしていますが、視察に行った方が良いと思います。会議の場で議論をしたり、インターネット上で情報を見ているだけでは、実際のことが分からないため、体感して、体験して、市民がそのまちで公園をどのように使っているのかを、見るだけでなく、一緒に楽しむことが大事だと思います。それでは、説明の方を事務局からお願いします。

(事務局) 資料説明

(伊藤会長) まず柿田公園で気になったことから話します。公園に開けた形にする、場所をつくる、空間をつくるなど書かれています。別の公園の場合、感じてもらう、役立てる、など体言止めになっているものがあります。市民にこのようにしてもらいたいという話と、市役所が空間を整備するという話が混ざった文章になっており、主体をどちらに置いて考えているのかが分かりにくいと思います。

(事務局) 基本的には、市民の方に使っていただくということを前提に資料を作っています。

(伊藤会長) 市民が公園という空間を使うということですね。

(吉武委員) この委員で策定する基本構想の目的を合わせた方が良いと思います。市民の公園の使い方の検討も必要ではありますが、それらを実現するための具体的なアクションの検討・記載も必要だと思います。例えば、柿田公園では、歩道と公園の境界を曖昧にし、「ふらっと」入れるという、空間のつくり方に関するポイントが出てきていますが、秋葉公園でも同様の考え方があった方が良くないと思

ます。つまり、擬態語のキーワードが各公園の特徴と結びついたものとするべきと考えます。また、キーワードと整備方針のすべてを無理に結び付ける必要もないと思います。柿田公園の木陰で本を読める空間という「緑」に関するポイントについて、秋葉公園でも緑の空間の活用という「緑」に関するポイントが出てきており、この場合の各公園の「緑」はどういう空間なのかを詳しく考えた方がよいと思います。

（伊藤会長） 私も同感です。せっかく4つの公園を同時に考えているので、各公園の特徴が見えるぐらいに踏み込んでよいと感じています。今後Park－PFIなど、民間の力も借りていかないといけないことを想定すると、市の整備範囲、民間に力を借りたい範囲、市民に自由に楽しく遊んでもらうソフトの範囲を意識しながら、3つぐらいの枠組みにして考えるべきだと思います。そうでなければ、内容が曖昧な、どこにでもある構想になってしまうと思います。

（青木委員） これから変わっていく、というイメージができませんと思いました。公園に来て「にっこり」するのは、どこの公園でも同じで、柿田公園ならではのキーワード、強みが見えてくると、4つの公園の構想を同時に策定する意味が分かりやすいと思います。人々が使用するときの感想のような文章がありますが、ターゲット層が少し分かりにくいと思いました。言葉選びから、元気な若者が中心で、ファミリー層や年配の方の様子が見えてこないと思いました。

（伊藤会長） 確かにターゲットやペルソナの枠はつくった方がよいと思います。

（近藤委員） 擬態語で表現しているのは、すごくよいと思います。市民に対して分かりやすく表現できていると思います。一方で、この擬態語は整備指針になるのでしょうか。

（事務局） 将来像のイメージです。

（近藤委員） 公園の分析がありますが、この分析が4つの公園の目指す姿に直結していないところが気になります。もう少し強く結び付けて表現した方がよいと思いました。例えば、安城市の移動動線、ネットワークの現状および目指すところで、4つの離れた公園をいろいろ選んで使ってほしいというメッセージを伝えたい場合、ここの分析が重要になると思います。分析を目指す姿に結び付けることをしっかり行った方がよいと思いました。

（伊藤会長） 全体を通した軸が、緑の軸なのか、ネットワークの軸なのか、軸をしっかり示した方がよいということですね。具体的なつながりまで記載する必要はなく、テーマがつながることを意識させることが重要という理解でよろしいですか。

（近藤委員） はい。公園の構想が動いていくことによって、つながっていないネットワークもつながっていくという意識を持つ必要があると思います。

（伊藤会長） 公園のコンセプトについて、大きな視点でネットワークを繋げることを表現し、より細かい視点として、ヒューマンスケールで考える市民の活動もおさえることが必要だと思います。

(湯浅委員) 構想は実現できないから書かないというのではなく、実現していくために構想を書いて、市民の皆さんに知ってもらい、さらに我々行政がやるだけではなく、周りの人たちも巻き込みながら進めていくことが良いと思います。

(水野委員) どのレベルにこの基本構想をまとめていくべきか、考えを統一した方が良いと思います。

(伊藤会長) あまりにも曖昧に書いてしまうと、具体的に落とし込むことができない場合があることを懸念しています。そのため、ある程度は算段ができるように整理をした方が良いと思います。例えば、民間にPark-PFIを検討してもらいたい場合、具体的な表現を出し、興味を引く必要があります。現在の資料に書いてあることを整理し、解像度を上げていっても良いと思います。

(近藤委員) 整備イメージと記載されているところについて、イメージではなく、具体的な内容が記載されているように見えます。そのため、イメージなのか、整備の方針なのかが分かりにくいです。書いてあるテキストの部分が具体的であることから、整備イメージではなく、整備方針に近いという印象を受けました。イメージであるのならば、よりイメージに寄せてもよいと思います。

(吉武委員) 4つの公園を同時に整備することは難しいかと思うため、まずは、優先順位や必要な整備規模、実現可能性をある程度想定する必要があると思います。市民の方に向けた発信は、イメージをふくらませて良いと思いますが、委員会が終わった後に、曖昧なイメージのみが残り、具体的な戦略がないまま、整備に進んでしまい、単なる修景や改修に留まってしまうことを懸念しています。

(近藤委員) 私は、構想の中身は都度更新があるものだと思っています。その時の状況にいろいろ応じることができる自由度があってしかるべきだと思います。また、自由度が少なくなったことにより、状況に応じて対応できなくなるということは避けるべきだと思います。今回の資料は、イメージといいながらも、ハードの場合、ソフトの場合と具体的な内容が書かれており、混乱してしまいます。具体的な内容を考えることは大事な視点であるため、構想に記載せず、意見として共有できる形で整理できると良いと思います。

(伊藤会長) 曖昧な表現にしてしまうと、落とし込む時に自由に解釈できてしまうため、具体的に落とし込んでいく時の道筋は立てておいた方が良いと思います。曖昧な表現でまとめてしまうと、今まで議論した内容や見てきたもの、調べたものが薄くなってしまい、損してしまうことが懸念されます。そのため、通常の構想よりも、もう少し踏み込んでもよいと思っています。この構想を読むとNPOやまちづくり会社、地元の事業者でも進出できるかもしれない、ということが感じられ、関わり代があるということを見えるようにしてあげた方が良いと思います。

(近藤委員) 曖昧な表現で納めていこうということではなく、構想にハードの細かい部分や整備方針を書くべきであるかという点を疑問に思っています。基本計画に繋がられるような資料は整理すべきだと思います。

(伊藤会長) 例えば、本編は構想までとし、資料編ではもう少し具体的な内容にしてはどうでしょうか。また、基

本計画では、誰がどのような役割を担うか分かるような具体的な計画にすること、といった申し送り事項を作成するのはどうでしょうか。

（近藤委員） 申し送り事項があるというのは良いと思います。安城市として、具体性を持ったイメージを構想に盛り込んでいくことで、次の計画にスムーズに繋がるということであれば問題ないと思います。

（水野委員） 基本的には、この委員会で具体的なイメージまでをつくるということですね。さまざまなプレーヤーが関わる可能性があることが分かるようにするために、ある程度具体的な内容まで落とし込むことが必要であるが、すべての内容を細かく決める必要はないということでしょうか。

（伊藤会長） Park-PFIで事業を想定できる公園については、サウンディング調査の結果を反映できると良いと思います。次に、内容の整理が必要です。どの公園も同じ将来ビジョンではいけないため、まちが浮き出てくるような内容にした方が良いでしょう。最後に、今までは公園を行政が管理するか整備するかという選択肢であったが、これからは公園を経営するという発想に変わっていくべきだと思います。

（水野委員） 整備のイメージについて、完成形ではなく、将来的にもずっと整備が続いていくイメージをつくりたいと思っています。さまざまなプレーヤーとして関わる可能性を残し、少しずつ段階的にやっていきたいと思っています。

（近藤委員） どのような人が関わっていくのか、どのように整備していくのか、といったプロセスの項目があった方が良いでしょう。整備という言葉を用いると、終わりがあるように感じるため、常に誰かの手が入り、公園を育てていくような表現があると良いでしょう。

（伊藤会長） 大前提として、各公園がネットワークになっていること、完成せずに成長し続けることなど、大きな方針が記載されていないですね。まちに開かれ、市民と一体になり、まちづくりの支援をするような公園であるべきだと思います。そのような言葉が、整備イメージの中に記載されているために混同してしまうのだと思います。そのため、まちに溶け込む、成長しつづける、ネットワークになっている、といった大きな方針は、もっと前に出さないといけないと思います。今日の議論を踏まえ、一度考え方を共有した方が良いでしょう。ページネーションの構成をどのように考えているのかを示してください。例えば、ペルソナはここに入れる、より細かい事業イメージは資料編にする、など委員の意思確認を経て作成をお願いします。

（水野委員） 人が気分よく感じ、人が満足することが、人が行動に移す一番の原動力になると思っています。このことをキーワードにしていますので、共有しておきます。

（伊藤会長） 「ときめき」や「ワクワク」、「ノリノリ」、「こつこつ」といった表現は、人間が中心に考えられており、人間の感情が表に出てきているため、分かりやすいと思います。近藤委員からアドバイスをもらったと聞いています。

（近藤委員） 別の自治体で行っている委員会のワークショップの際に、高校生委員に公園で困っていることや

やりたいことを一言で言葉にすると何？と聞いたところ、このようにダイレクトに響き、納得できる言葉が出てきました。そういうことが体験としてあり、アドバイスしました。公園は市民に使ってもらってこそその施設であるため、市民によりイメージしてもらいやすいビジョンが良いと思いました。

（青木委員）「ふらっと」や「にっこり」は、どの公園でも当てはまると思いますが、イメージしやすい表現でもありました。資料は、公園が変わっていくイメージを事務局が持っており、そこに向けて着地させていくための内容になっていました。市民に分かりやすいキーワードを見つけていく段階であれば、それぞれの公園の個性を表した言葉が他にあると思いました。より市民目線でもっと公園の個性を伝えることができる言葉は何なのかを考えられると良いと思います。

（吉武委員）整備と「ふらっと」や「にっこり」などのキーワードを結び付け過ぎて受け取っていました。現状分析の結果を整理して、このキーワードに結びつくような魅力が言えると良いと思います。そうすると、例えば、ここでパンやコーヒー飲めるといいよねと言っている理由がしっかり出てきて良いと思います。

（伊藤会長）さまざまな課題や現状分析から整備イメージが出来上がり、そこにペルソナから利用者を当てはめていき、細かくなりすぎた内容は資料に移し、基本計画への申し送り事項とすればよいと思います。具体的な整備イメージは、まちの団体レベルでもやれるのか、民間企業レベルなのか、民間でも大企業レベルなのかといった想定をしながら作成し、各公園の特徴を出した方が良いと思います。

（水野委員）現状分析から大きな指針を示し、その後、各公園に落とし込んだときに「ふらっと」や「にっこり」という言葉が出てくるのは強引になりませんか。

（伊藤会長）ワークショップや委員会の意見があるため問題ないと思います。いろいろな要素が入ってくるため、公園を限定しない方が良いと思います。例えば、SDGsのようにいろいろな要素が入っているやり方が良いと思います。何かの要素を色濃く出すことを考えると難しくなるため、その公園の個性を出すことだけを考えていけば良いと思います。その公園でしかできないことがあるため、特徴は必ず出ると思います。その中で、どんな人たちが、どんなことをやるかを考えれば、自ずと各公園が一緒にはならないはずです。

（近藤委員）各公園の目指す姿は、擬態語を最初に出し、現状分析に伴い、各公園での過ごし方のイメージを表現することが良いと思っています。なので、公園の目指す姿やビジョンという言葉ではなく、各公園での「過ごし方」でまとめることができると、「過ごし方」によって気持ちの変化がすることと擬態語が結びつくと思います。使い方よりも過ごし方の方が良いと思います。

（伊藤会長）居心地がよいことや子どもたちが遊ぶということに焦点を当てるならば、過ごし方が適していると思います。それぞれの公園の過ごし方が最初に来て、そのように過ごす環境をつくっていくためには整備が必要であり、整備イメージを作成するといった順に整理をしていく方が良いと思います。今は、そのような順になっておらず、混在しているため分かりにくくなっていると思います。全体ビジ

ョン、目指す姿は、一言でキャッチコピーのようにまとめてしまうと、よくあるフレーズになってしまうため、3つ、4つあった方がいいと思います。先程出てきた3つの大きな方針がそれです。

（水野委員） 整備の具体像があり、それを実現するために整備計画があるというイメージですが、基本構想の段階で整備計画をどの程度詳細に整理するのが課題です。

（伊藤会長） どのような人たちと整備計画を実現できるかといったところまではイメージしておいた方が良いでしょう。ペルソナがあれば、例えば、親子連れで小さい子どもを連れて行って、ママ友たちがのびのび過ごす、みんなでにっこりするといった形で落とし込むことができます。そうすると、この擬態語が生きてくると思います。

（吉武委員） 全体のつなげ方に対しての具体的なアクションをどこかに書けると良いと思います。例えば、安城市の移動動線の現状および目指すところにおいて、各地区公園にサイクルポートを設置することで変化をもたらすという記載がありますが、まとめには記載がなく抜け落ちています。重要なことであるため、記載した方が良いでしょう。このように、つなげるための施策を入れた方が良いでしょう。

（近藤委員） 「ネットワーク」、「成長しつづける」、「まちに溶け込む」の3つ指針は、どの公園にも必要な整備の視点であるため、それぞれどのような施策を進める必要があるのかについて記載があった方が良いでしょうと思いました。

（青木委員） 5ページ目のまとめで、ペルソナが何となく書かれていますが、世代が見えないと思いました。10代後半から20代のような言葉遣いで表現されており、お年寄りがどう過ごすのか、ファミリー層がどう過ごすのかが見えてこなかったです。また、子どもを核としたまちづくりをうたっていますが、こどもの様子が全く見えないのが気になりました。過ごし方をイメージして書き出していく際に、各世代の人たちがそれぞれの公園でどう過ごすのかという視点は大切にしたい方が良いでしょう。

（伊藤会長） 参考資料に、公園を中心にしながら周辺にどのような施設があり、どのような関係性があるかを書くことはすごく良いことです。この地図の解像度をもっと上げたものが欲しいと思いました。例えば、柿田公園では、隣の小学校とのつながりや隣の施設とのつながりをみると、道路の整備もした方がいいよね、という話が浮き出てきます。各公園から半径200m～300mの道路までが分かるものがあった方が良いでしょう。一貫して伝えたいことは、ヒューマンスケールが大切であることです。公園レベルでは、人が周辺を歩くスケール感が大切であり、市全体レベルでは、どのようにしていきたいかというところをしっかりと落とし込むことが大切だと思います。ペルソナをつくり、その行動を考えると、ヒューマンスケールのところまで落とし込めていないため、整備も公園の中だけで考えてしまい、まちを考えていないケースが多いです。公園のことだけでなく、エリアとしての特徴を踏まえながら、公園をどうするか、道路をどうするか考えることが重要です。

すごくいい議論ができたと思っております。あとは形にして、それを計画にして、そして実行できるようなフェーズにつながっていくと良いと思います。全国初になるような基本構想をみんなで作り上げるのだという気概で、あと数回頑張っていけたらと思います。

皆さんありがとうございました。